



インタビュー：宮平先生

国際交流について

コロナ前は、中学3年生時にロサンゼルスへの修学旅行を行ってきました。アメリカの習慣や文化を学ぶため、現地の方々へ日本の文化を伝えたり、逆に現地の方へインタビューを行い、日本との違いをまとめて英語でスピーチします。

また、日系企業への見学会、スポーツ観戦でも、アメリカの文化を体感しました。一番人気なのは現地のディズニーランドで、英語コミュニケーションを取りながら園内を巡る為「日本では得られない体験がある」と生徒もよく言っています。

高校一年生の終わりには、希望者を募ってイギリスのオックスフォード大学やケンブリッジ大学への短期留学があります。寮に宿泊し、現地の学生がパディとなってくれて、少人数で一緒に美術館を巡ったり、市内の様々な名所旧跡を案内してくれます。イギリスではパーティがあるので、男子女子共にドレスアップをしてエスコートの文化に触れられることも大きいですね。



インタビュー：道旗(みちばた)先生

今後のICT教育に期待すること

デジタルを使用した、これまで以上に分かりやすい授業の展開は、第一に挙げられると思います。今は黒板の板書だけでなく、写真や動画など動きのあるイメージを見せてあげられるので視覚的なメリットは大きいです。

他にも学習の効率化という点で、これまでだとプリントを印刷し、配布して回収するという流れでしたが、アプリを通じて課題を配信することができずし、生徒会の投票なども、うちではタブレットで行いますので、すぐに結果もわかって非常に便利です。あとは模試の成績返却後、生徒の弱点に合わせてAIが適切な課題を配信してくれるシステムがあるので、それらを活用して、生徒たちが力をつけつつ意欲向上に繋がっていったくと嬉しいですね。

グローバル教育は、言語の習得だけでなく、自分の国や地域の伝統や文化についての理解を深め、人権、平和、異文化などのテーマについて世界規模でものごとを考える力を身につけるための教育だよ。

グローバル教育の特色

本校では最初から、国際交流や国際人になってほしいという方針がありましたので、英語教育については以前から力を入れています。国際人育成として、英語授業の中でネイティブな講師が入り、リスニングやライティングなどをチームティーチングで行っています。例えばスピーキングであれば、その時間は英語だけで話さないといけなかったり。中学生の段階では、とにかく英語でのコミュニケーションを楽しむという点を重視し、高校生になると英作文へ入り、英語四技能の基本を作っていくことを行っています。



コロナ禍での工夫

海外研修が実施できないかわりに、ネイティブの講師を交えた少人数でのスピーチ練習やディベートを朝から晩まで行うイベントなど、国内でできることを色々企画して行っています。

オンラインでフィリピンやカナダと直接繋がりながらのスピーチコンテストも行いまして、審査員含め全て英語でリアルタイムのやりとりですから、非常に得られるものは大きいと感じています。とにかく自分達で発した英語が「伝わる経験」をさせてあげるのが重要ですね。

英語の教育改革について

やはり難関国立大は長文読解が外せませんので、授業の中での対策はもちろん、タブレット端末を活用して、授業外でも英語が学べる環境を増やしていけるよう動いています。

また「英語で発信する力」というのは結局、一般教養を知らないと、自分で仮説を立て、探求することはできません。なので洋書の多読機会をより一層増やし、語彙力や思考を深められる時間提供や、目的を細分化した形で講座準備も進めています。

ICTとは、Information and Communication Technology、つまり「情報通信技術」を意味します。「ICT教育」とは、教育現場で活用される情報通信技術そのものや取り組みの総称です。

オンライン授業とICT教育について

2016年頃には学校のWi-Fiを整えて、2017年度には新中1・新高1の新入生から一人一台の端末を導入しました。今では全生徒が端末を持つ形になり三年目となります。端末は「Surface Go(サーフェスゴー)」というタブレットを使用しており、全教室に電子黒板も配備していて、コロナ禍で休校となった時期もZoomを使ってオンライン授業の展開ができました。

タブレット導入のメリット

やはりあるのとないのとは、大きく違いますね。特に積極的に学ぼうとする生徒たちですと、アプリを使って自分ひとりで予習や復習ができるので、前向きに取り組む生徒は増えたと感じます。また、スタディサプリ等は、大学受験に対するコンテンツなども幅広く用意されており、活用している生徒も多いと思います。

目指しているICT教育

これまでは活用できそうなものを取り入れてきたんですが、今後は無駄を除き、良い部分だけを残してさらに伸ばしていきたいです。生徒たちにとっても今は情報が溢れている時代だからこそ、自分達に必要なものを取捨選択して、情報を上手く活用しながら社会で活躍している人に育って欲しいと考えています。

★初芝富田林中学校・高等学校ではタブレットに、プラットフォームとして「Classi(クラッシー)」学習アプリは、「スタディサプリ」「スタディサプリEnglish」中学では「Qubena(キュービナ)」など、色々なアプリを導入しています。

学校の未来図

初芝富田林中学校・高等学校 編



design : 滝澤 悠平

グローバル教育やICT教育が注目を集める中、現在学校では具体的にどのように考え、どのような取り組みを行い、そしてどんな未来を描いているのでしょうか。この企画は、様々な学校へ訪問し、普段なかなか知れない貴重な学校情報をお届けする「学校の未来図」！第3弾では初芝富田林中学校・高等学校でお話を伺いました！

Check!! 安田校長の未来図



インタビュー：安田校長

先生方には「答えのない」または「考え続ける問い」をもって欲しいと話をしています。例えば「テロリストになる男の子を、テロリストにさせないためには、どういう声かけをしたら良いか？」などのなかなか答えが出ない、複数の可能性がある問いですね。アクティブラーニングで話し合わせたら良いというより、さらに「考えを深め合える」環境になれば良いと思っています。もちろん宿題の出し方などもきっちりしていますが、授業をさらに良くしていくため「考える力」の育成を大切に考えています。

南大阪から世界を目指す進学校にしたいですね。ただ、進学実績だけの勝負ではなく、初芝富田林中学校・高等学校へ行く「多角的な視野」や「発想力」が鍛えられ、「自ら考える力」が身につく進学校でありたいと考えています。

新しい教育目標とその授業

学校の未来図

生徒指導 教科指導ともに丁寧に行えますし、先生間の連絡も非常に密に行っています。中一〜高二までの間でビブリオバトルへの取り組みも行っており、クラス単位で代表を選出し、学年で選出し、最終は学校代表として参加していくというもので、外部との交流としても非常に生徒たちの刺激となる取り組みになっています。

変化した教育目標

学校の校風と生徒の様子

「本質を問い、本質を見極める力を養う」という教育目標へと変化をしました。その理由として一つはグローバル化、もう一つはAI社会、そして危機管理の観点が大きいです。

生徒たちは比較的落ち着いた子が多いと思います。カチッとした学校のイメージかと思うのですが、何事にも丁寧な学校かなと。先生方も多種多様な考えがありつつ、団結力の強い集団です。

本質を問い、本質を見極める力を養う



初芝富田林中学校・高等学校を詳しく知りたい方はこちらをチェック



通称「はつとん」で親しまれる初芝富田林中学校・高等学校は、イキイキとした学校生活を送れる「緑豊かな環境」が整っていました。